

HUMAN FIRST

LAB

ヒューマンファースト研究所

ワーカーに関する定点調査レポート

【2022年2月実施】

2022.03.31

調査手法	WEBアンケート ※調査協力機関：株式会社マクロミル
調査期間	第1回：2020.05.29 ～ 2020.05.30 第2回：2021.01.25 ～ 2021.01.26 第3回：2022.02.04 ～ 2022.02.07
調査対象	週に3日以上在宅勤務をしているビジネスパーソンの男女 (関東地方+近畿地方)

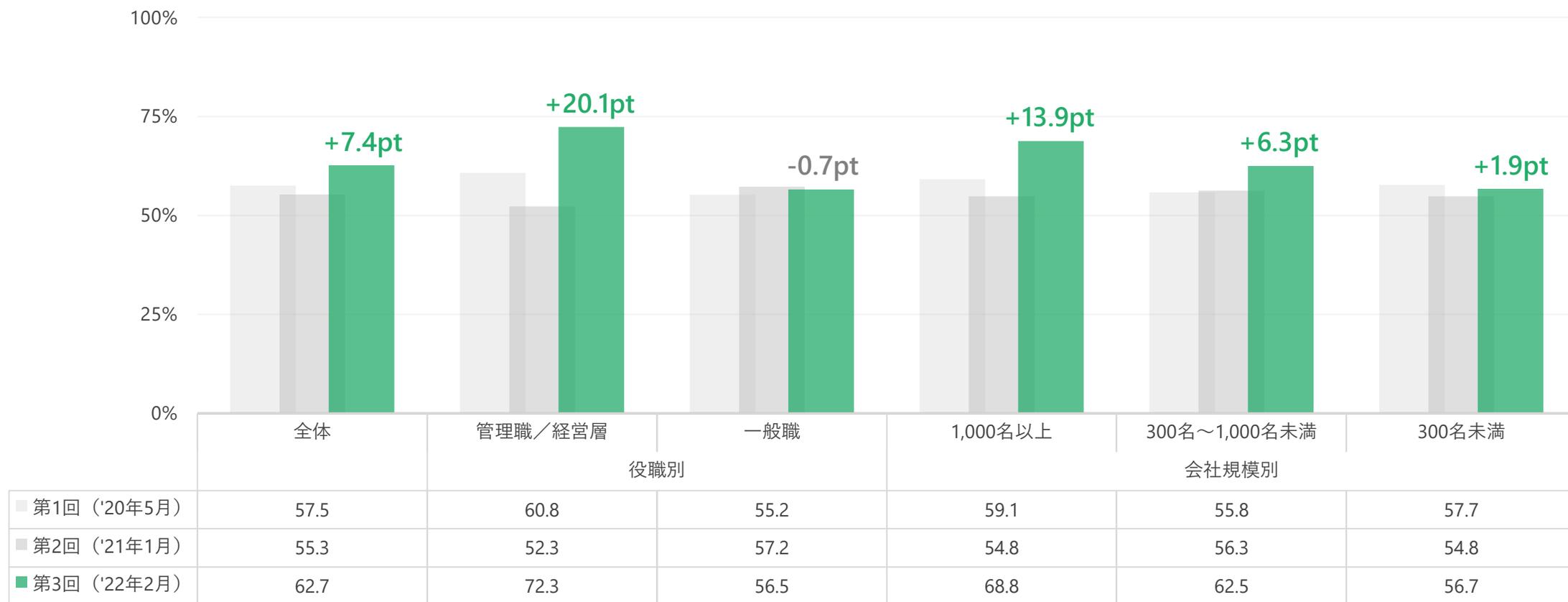
■ サンプル数 (第1回 / 第2回 / 第3回)

会社規模 役職	1,000名以上	300~1,000名未満	300名未満	合計
	管理職 / 経営層	男性：52/52/52 女性：52/36/42	男性：52/52/52 女性：26/ 6/13	男性：52/52/52 女性：26/45/31
一般職	男性：52/52/52 女性：52/68/62	男性：52/52/52 女性：78/98/91	男性：52/52/52 女性：78/59/73	364/381/382
合計	208/208/208	208/208/208	208/208/208	624/624/624

前回の調査と比較して在宅勤務の業務パフォーマンスは高まる傾向が見られた。

特に、**管理職／経営層**や**大規模企業**でその傾向は強いことが分かる。

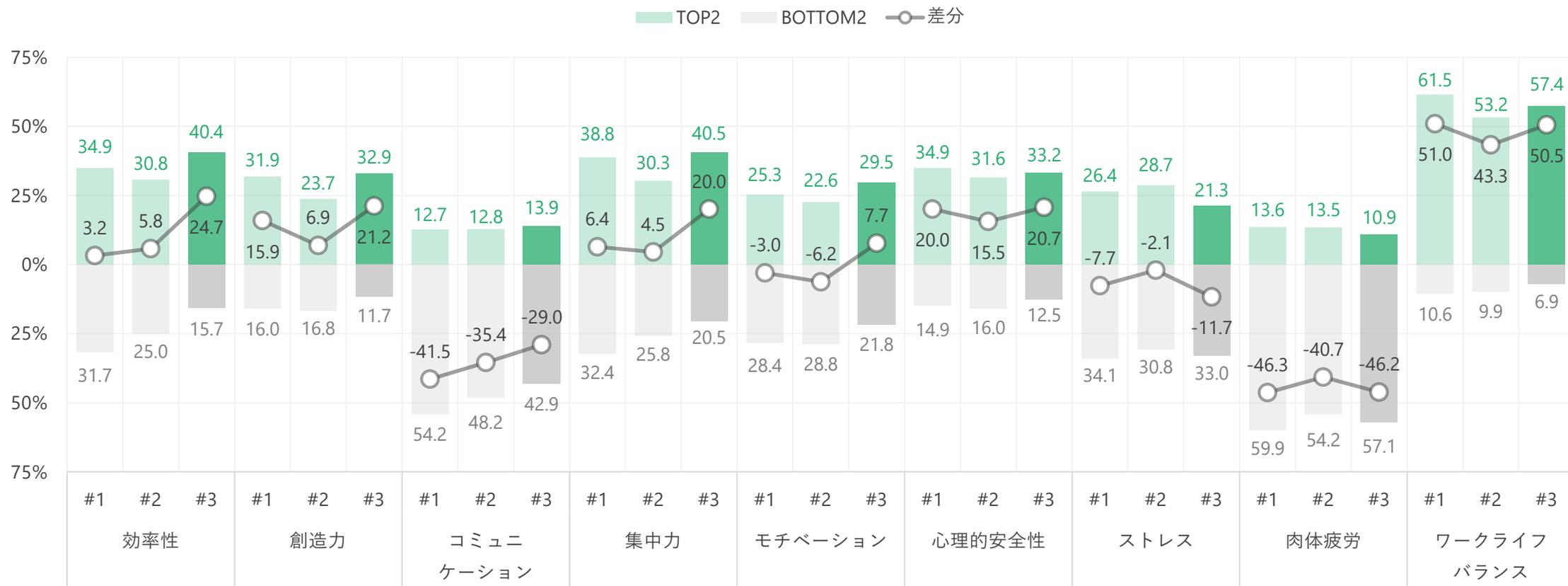
Q.あなたの在宅勤務の業務パフォーマンスについてどのように評価しますか。



個人パフォーマンスとしてはすべての項目で改善・向上の傾向が見られる。

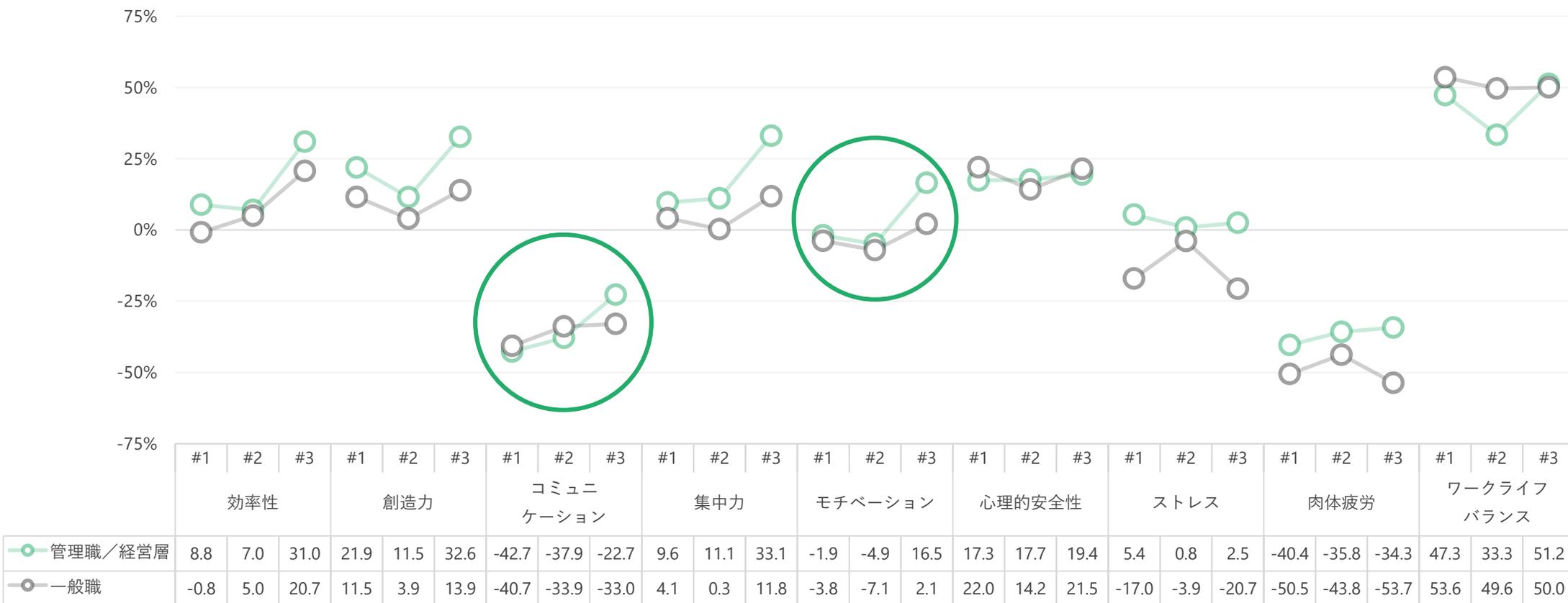
在宅勤務「疲れ」から一周して在宅勤務「慣れ」が進んでいる様子。

Q. 以前と比べて現在の在宅勤務におけるあなたの個人としての業務パフォーマンスについて教えてください。



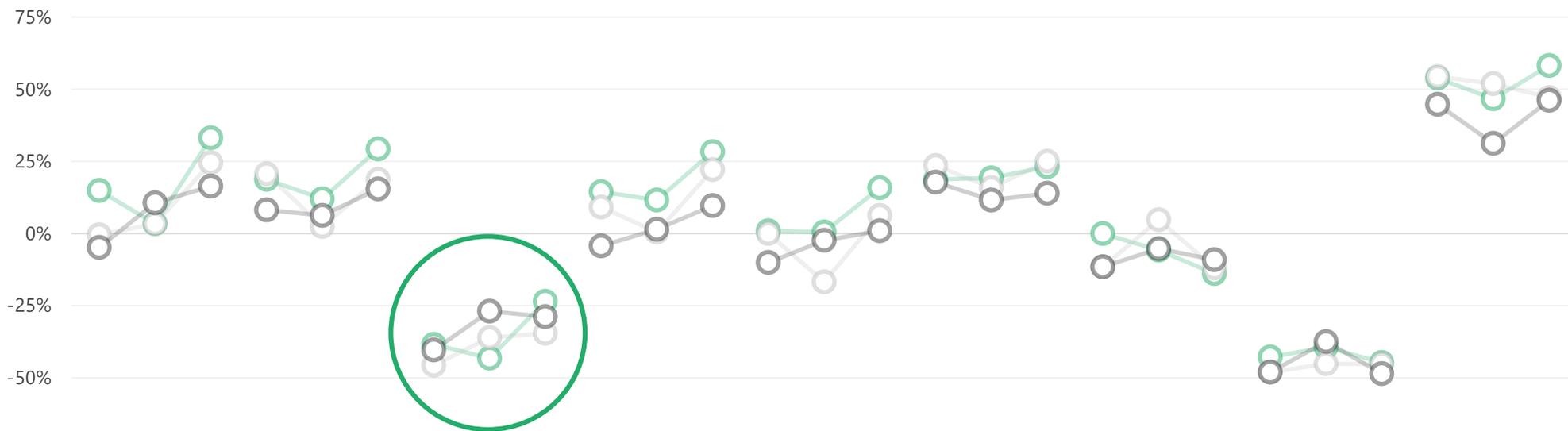
役職別で見ると、**一般職の回答者はコミュニケーションやモチベーションなどが管理職／経営層よりも改善の傾向が鈍く、現場ならではの課題感が見られる。**

Q.以前と比べて現在の在宅勤務におけるあなたの個人としての業務パフォーマンスについて教えてください。



会社規模で見ると、大規模な会社ではV字回復している項目が多く見受けられる。一方、小規模の会社ではコミュニケーションのパフォーマンスに課題がある様子。

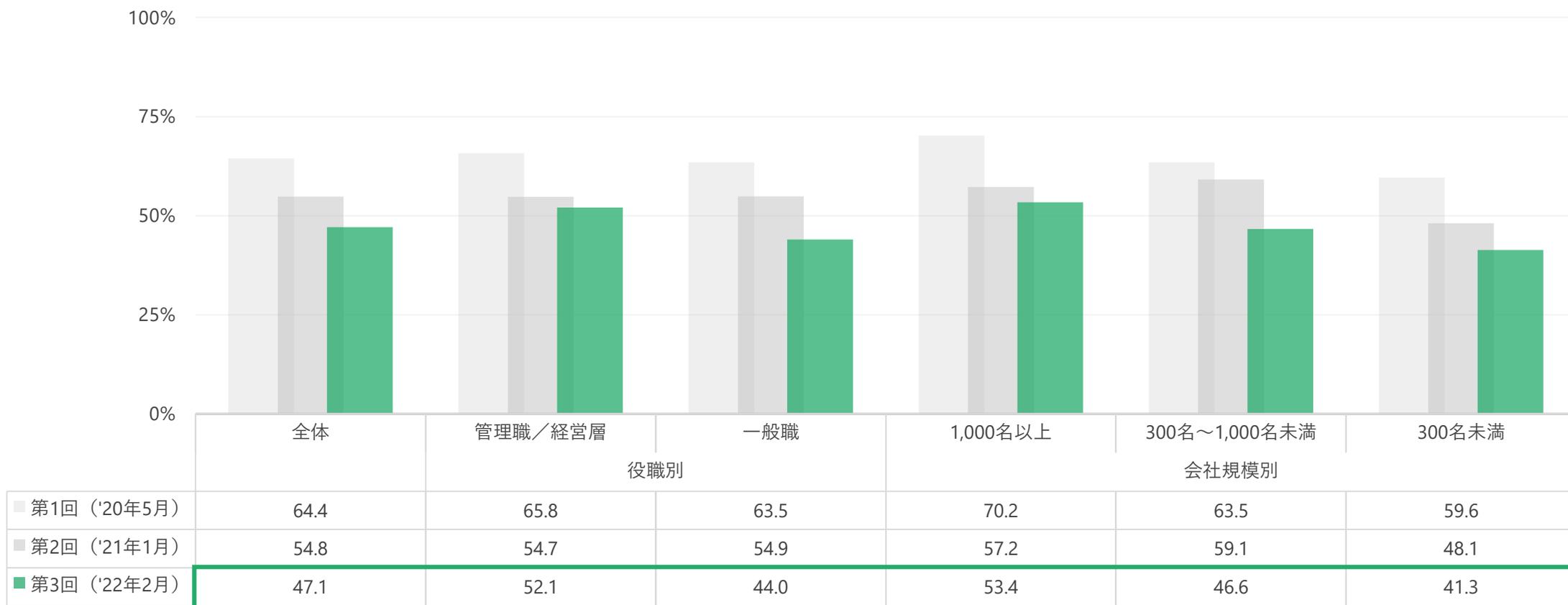
Q. 以前と比べて現在の在宅勤務におけるあなたの個人としての業務パフォーマンスについて教えてください。



	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3	#1	#2	#3
	効率性			創造力			コミュニケーション			集中力			モチベーション			心理的安全性			ストレス			肉体疲労			ワークライフバランス		
● 1,000名以上	14.9	3.4	33.2	18.8	12.0	29.3	-38.5	-43.3	-23.6	14.4	11.5	28.4	1.0	0.5	15.9	18.8	19.2	23.1	0.0	-5.8	-13.9	-42.8	-39.4	-44.7	53.8	46.6	58.2
○ 300名~1,000名未満	-0.5	3.4	24.5	20.7	2.4	18.8	-45.7	-36.1	-34.6	9.1	0.5	22.1	0.0	-16.8	6.3	23.6	15.9	25.0	-11.5	4.8	-12.0	-48.1	-45.2	-45.2	54.3	51.9	47.1
● 300名未満	-4.8	10.6	16.3	8.2	6.3	15.4	-40.4	-26.9	-28.8	-4.3	1.4	9.6	-10.1	-2.4	1.0	17.8	11.5	13.9	-11.5	-5.3	-9.1	-48.1	-37.5	-48.6	44.7	31.3	46.2

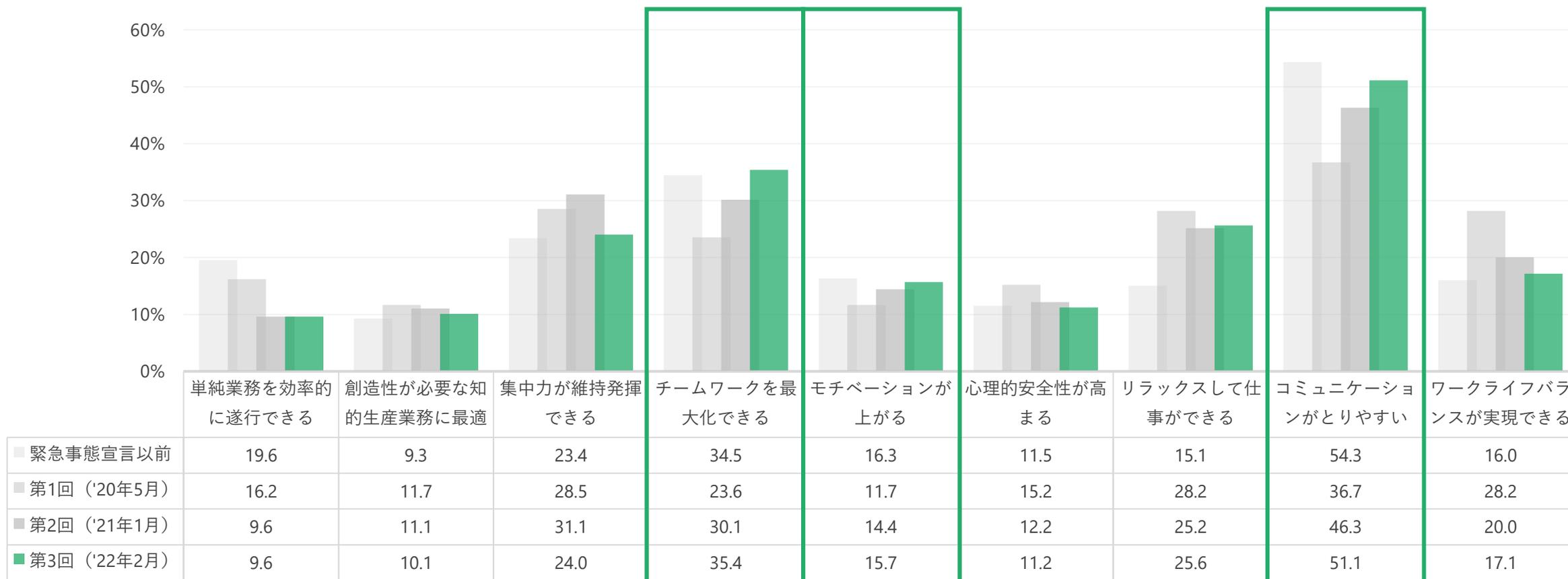
最初の緊急事態宣言発令直後の第1回の調査から2年近くが経過しているものの、
約半数の考え方が変化しており、オフィスの価値を改めて見直す必要性があると言える。

Q. 以前と比べあなたが主たる拠点となるオフィスに求める価値や役割についての考え方は変化しましたか。



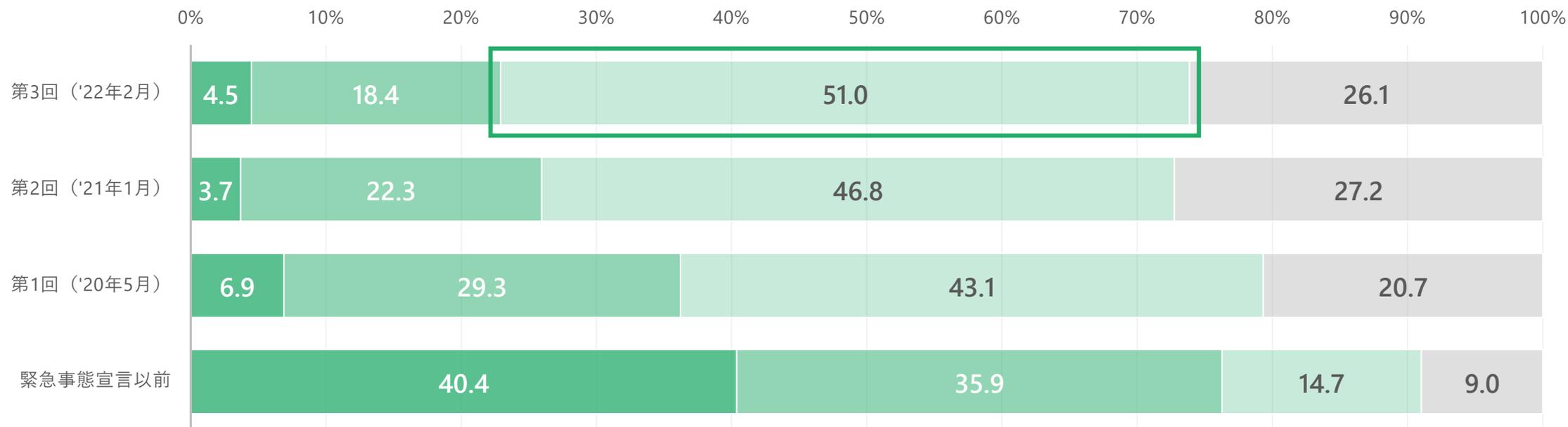
チームワークやモチベーション、コミュニケーションなど在宅勤務に潜在している課題が解決されるワークスペースとしてのオフィスの価値や役割が求められていると言える。

Q.あなたがオフィスに求める価値や役割について近いものはどれですか、優先順位の高いものを2つ選んでください。



在宅勤務やサテライトオフィスを活用しながら時々出社、を志向する層が過半数に。
出社は不要と考える層は微減しており、オフィス特有の価値や役割が求められている。

Q. 本社や支社オフィスを拠点に出社して働くということについてあなたの考えに一番近いものを教えてください。

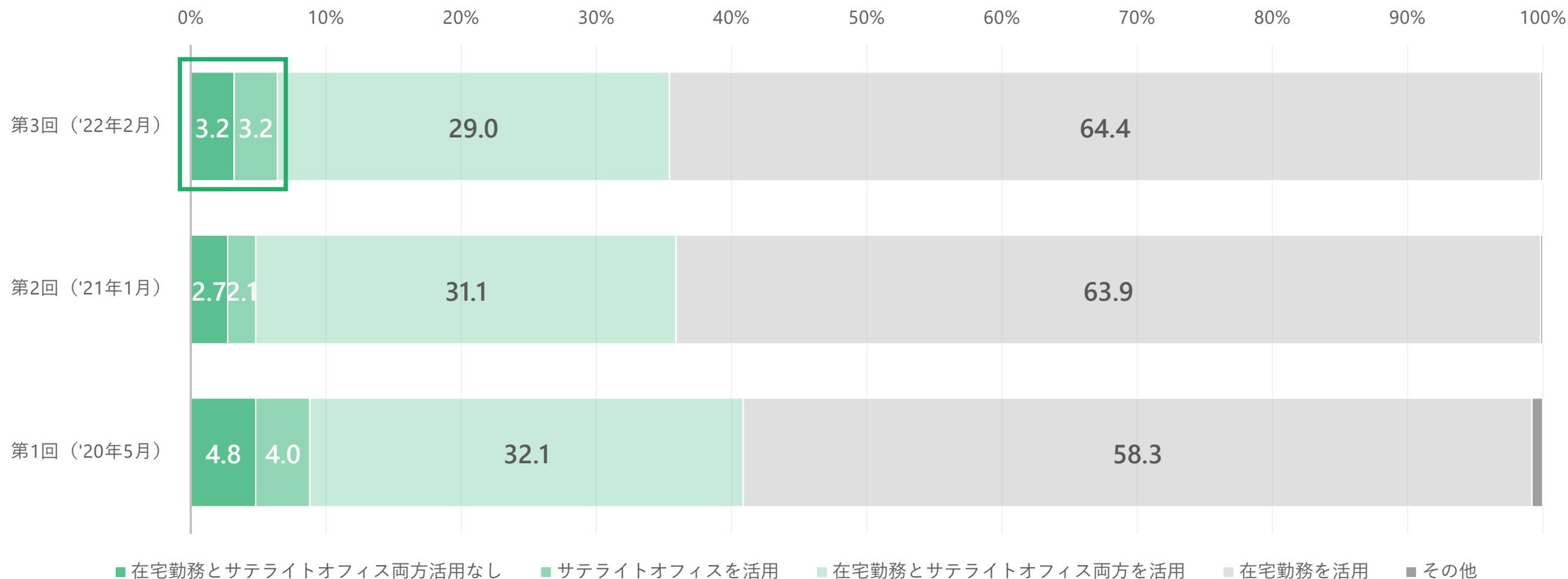


- 本社や支社オフィスを拠点に、毎日出社して働くべき
- 本社や支社オフィスを拠点に、基本的には出社しながら時々在宅勤務やサテライトオフィス活用がよい
- 本社や支社オフィスを拠点に、時々出社し基本は在宅勤務やサテライトオフィス活用がよい
- 本社や支社オフィスを拠点に出社して働く必要性を全く感じない

理想的な働く場所のイメージ

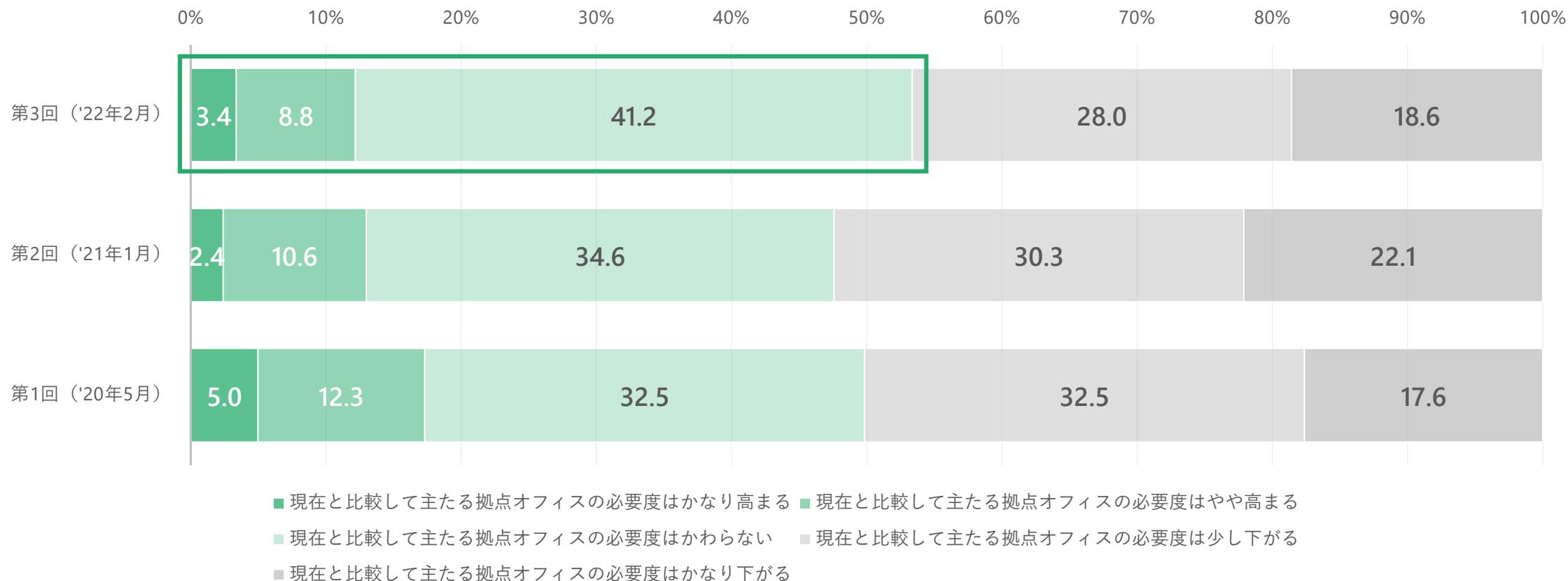
在宅勤務のパフォーマンスは向上した一方、センターオフィスやサテライトオフィスで働きたいと考える層が微増しており、在宅勤務以外のワークスペースを求める兆しも。

Q.働く場所についてあなた個人として理想的な利用イメージはどれですか。



オフィスの必要度は高まる／変わらないと答える層は前回よりも増加している。
 オフィスならではの価値や役割が再認識され、拠点を持ち続けようとする傾向。

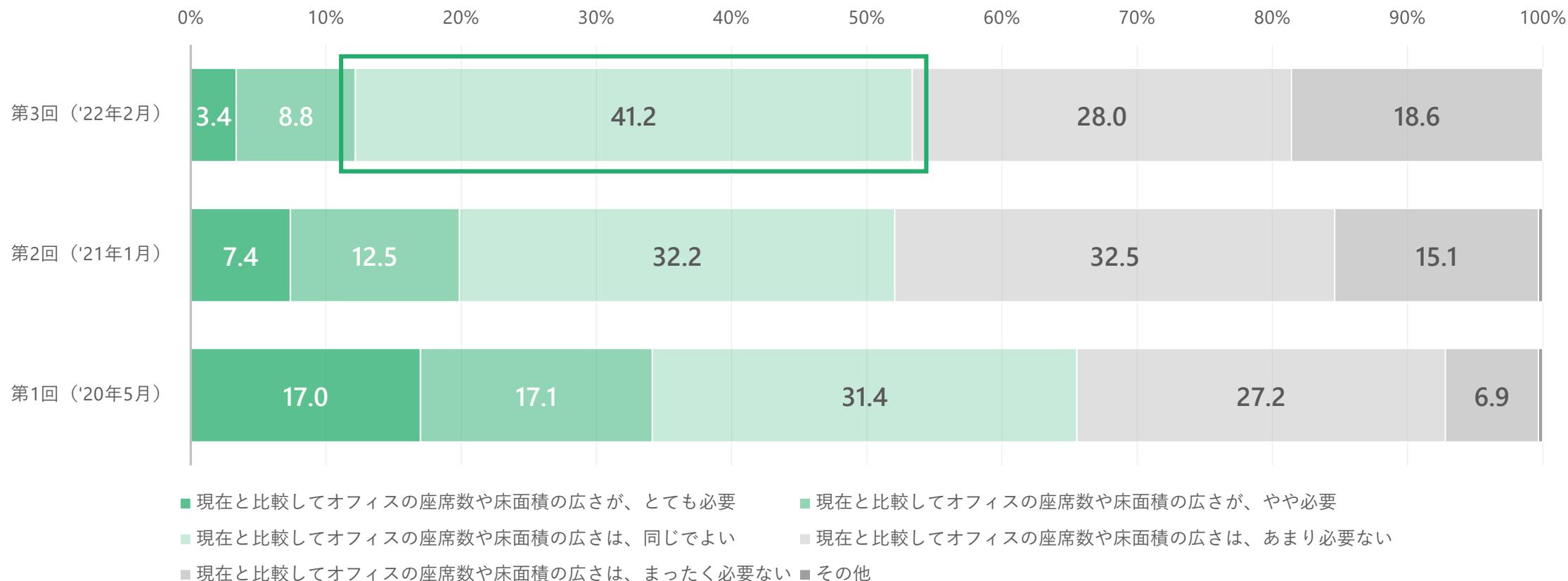
Q.主たる拠点となるオフィスの必要度について、あなたの考えを教えてください。



床面積については、**現在と同じでよいと考える層が増加している状況。**

これからのオフィスは「どれくらい広いか」ではなく、「どのように使うか」が重要に。

Q.あなたの主たる拠点となるオフィスの座席数、会議室含めた床面積の必要性について、あなたの考えを教えてください。



1

前回調査では在宅勤務「疲れ」からパフォーマンスが低下していたが、第1波から2年の経過による在宅勤務「慣れ」によりパフォーマンスは向上。

2

現場や中~小規模の会社を中心にコミュニケーションやモチベーションなど在宅勤務ではカバーしにくい価値や役割をオフィスに求める兆しが。

3

拠点となるオフィスの必要性は維持され続けている一方で、オフィスは「どれくらい広いか」ではなく、「どのように使うか」が論点に。